

ほっとするふるさとごはん 「豆のトマト煮」

森の民話茶屋の **豆** が主役！食欲の秋にモリモリ食べたい、ふるさの味覚。
 といえば豆味噌がお馴染みですが、今回はまた違うおすすめレシピをご紹介します！

材料

- ・豆（ひよこ豆、青い豆、ささぎ豆…色々な種類の豆を使う ※黒豆は黒く煮えてしまうので避ける！）
- ・にんじん
- ・玉ねぎ
- ・コンソメ
- ・ケチャップ or トマト
- ・塩コショウ（お好みで）

（人数分の食材を使う）

作り方

- ① にんじん、玉ねぎ：豆と同じくらいのサイズにサイコロ切りをする。
- ② 豆：何種類か用意した豆の中で、煮えにくいものから順番に茹でていく。豆を全て茹でたらざるにあける。
- ③ ①で切ったにんじんと玉ねぎをコンソメで煮る。
（水は食材がかぶるくらい）
- ④ ③が煮えたら②で茹でた豆を入れる。
- ⑤ ケチャップ or トマトを加えて煮る。
- ⑥ お好みで塩コショウで味を整える。

店舗情報

OPEN：5月24日(土)～11月16日(日)

土・日 10:30～14:30

（平日：12名以上の団体様のみの利用可。ご相談ください）

お食事の数には限りがあります。
 事前予約がおすすめです。

☎ 土・日 0243-24-7410

（森の民話茶屋）

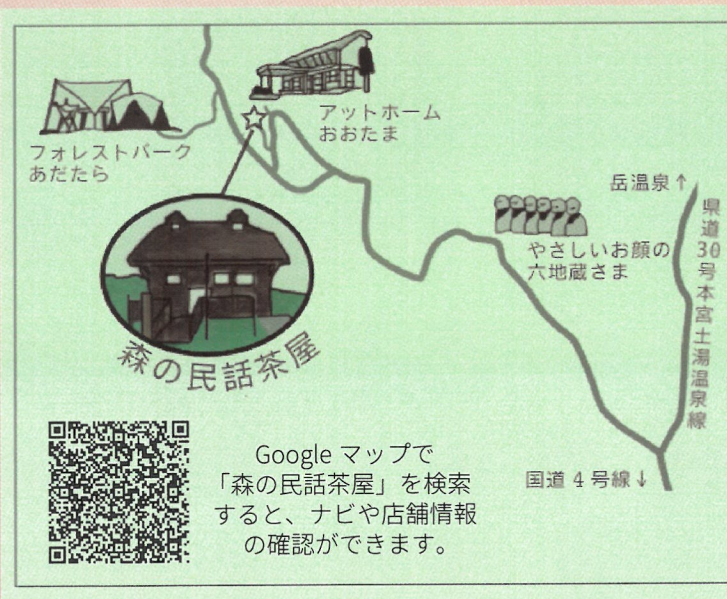
☎ 平日 0243-24-8096

（大玉村役場産業課）

〒969-1302

福島県安達郡大玉村

玉井字前ヶ岳国有林 7 林班



お知らせ

今年5月24日(土)に開催した「森の民話茶屋オープン式」の抽選会にて、森の民話茶屋お食事券ご当選の皆さまへ。期限は今年11月16日(日)までですでお気を付け下さい。



森の民話茶屋
Instagramを見る



森の民話茶屋通信
Vol. 1～22を見る



森の民話茶屋通信
Vol. 23～32を見る

ふるさとの民話とふるさとの食をつないで 森の民話茶屋通信 Vol.33 2025年10月号



（オープン当初 2000年頃の森の民話茶屋）

画・森の民話茶屋店主後藤みづほ

大玉村おはなしの地図 Ver.2

—森の民話茶屋運営委員会—

新発見！ 再発見！

身近なところに転がっている魅力を見つけていこう

大玉村おはなしの地図 ～その2～

大玉村を、紐解いていく。

先祖が残したおはなしを辿ることは、村の暮らしや現在の大玉村のあり方の源泉を辿ること。おはなしの旅にしましょう。

サイの神^{かみ}

1月7日の夜、集落の水田に集って歳神様を送る正月行事。この火で炙った餅や団子を食べると、その1年病気をしないと伝えられています。

地域に残る風習ももとを辿ればこの地で暮らしたふるさとの先祖たちのおはなし。その地域での暮らし何を大切にしていたかわかりますね。

安達地方の節分^{あだちちほう せつぶん}

その昔、鬼を退治したという渡辺綱の話から、渡辺家には鬼が寄ってこないため節分の豆まきは不要という風習が安達地方に残っています。この鬼が酒呑童子です。

矢筈石と弓張石^{やはすいし ゆみはりいし}

玉井小学校正面玄関前にある大きな石、この石にも物語があります。源義家が奥州征伐の際、敵陣めがけて放った矢が大石のてっぺんを打ち砕き、えぐられた形の矢筈石ができたと言います。その矢を放った時に義家が足場に使っていた石を弓張石と言います。

首なし地蔵^{くび じぞう}

このお地蔵さまの前を花嫁さまが通る時は誰かにおんぶされて通るか、別の道を通らなければならぬという言い伝えがあります。首なしの姿が、花嫁さまにとって縁起が良くないということなのとか。

しょんべん地蔵^{じぞう}

このお地蔵さまに触れると、おねしょが治るという言い伝えがあります。お供え物をしたり、おべべを着せたり、頭をなでたり、大切に扱い守ってきたお地蔵さまです。

弥生時代の集落の跡が発掘された大山「破橋」にも花嫁さまが通ると結婚が破談になるという言い伝えが昔あったそうです。古くから人が暮らした場所には様々なおはなしが残されていますね。

みなさん、知っているおはなしはありましたか？民話や昔話は、改めてふるさとを知るきっかけになります。今でも続いている地域の伝統、集落の風習など・・・ふるさとのおはなしに視点を

フォーカスしてみると、おはなしの源泉は1人1人のすぐそばに存在しているようです。そして皆さんの今のお話が百年後には昔話になるかもしれない、と想像するとワクワクしますね。

何度でも伝えたい！おはなしのジャンルそれぞれ！

“ちがひ”を知ると、1つ1つのおはなしがよりクリアにより奥深く解釈できて、楽しみが広がります。

伝説

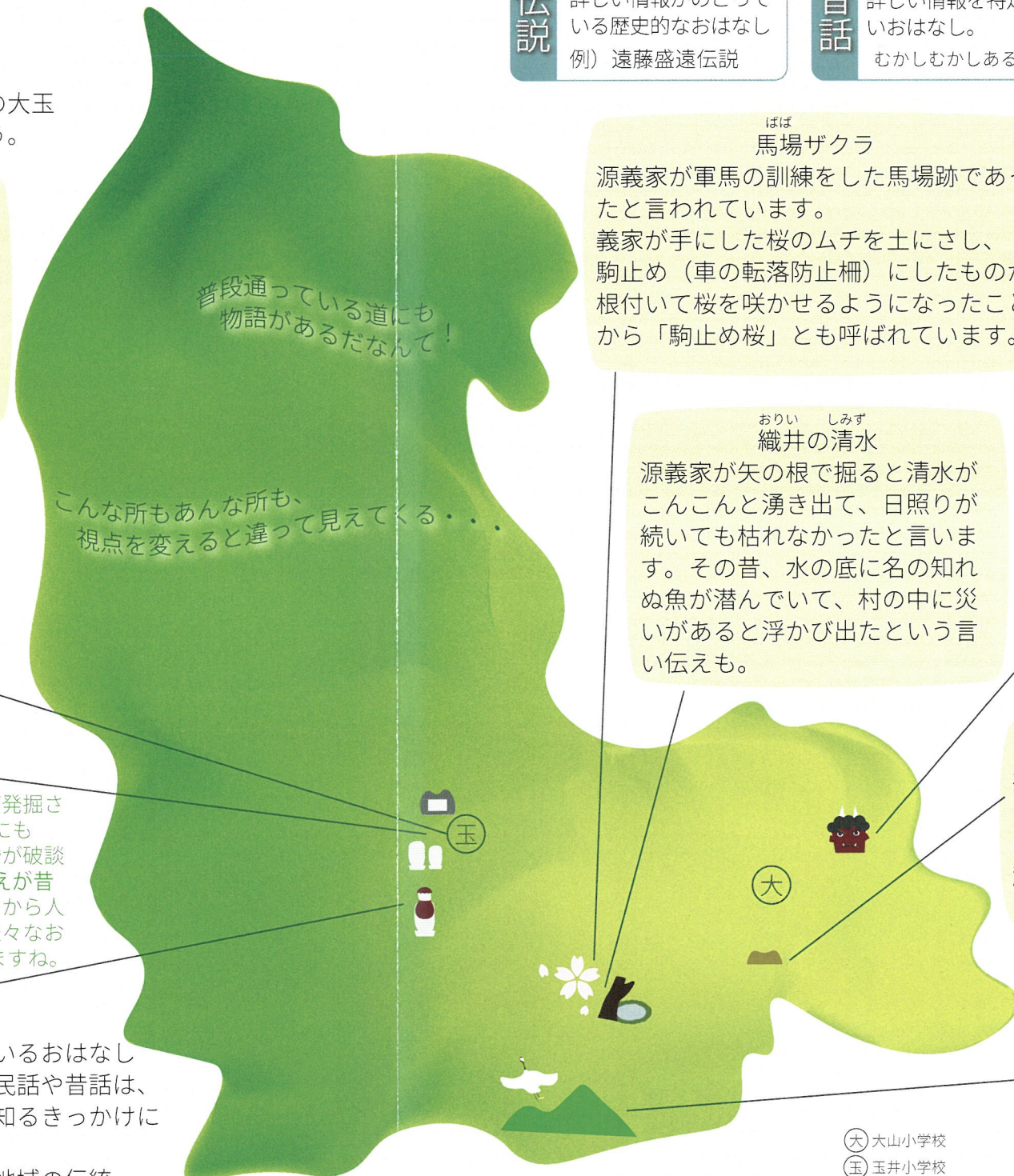
とき・ところ・ひと
詳しい情報がのこっている歴史的なおはなし
例) 遠藤盛遠伝説

昔話

いつ？どこ？だれ？
詳しい情報を特定しないおはなし。
むかしむかしある所に...

民話

方言で語られる地域固有のふるさとのおはなし。
例) 名倉山と苗松山が喧嘩した話



馬場ザクラ^{ばば}

源義家が軍馬の訓練をした馬場跡であったと言われています。義家が手にした桜のムチを土にさし、駒止め（車の転落防止柵）にしたものが根付いて桜を咲かせるようになったことから「駒止め桜」とも呼ばれています。

織井の清水^{おりい しみず}

源義家が矢の根で掘ると清水がこんこんと湧き出て、日照りが続いても枯れなかったと言います。その昔、水の底に名の知れぬ魚が潜んでいて、村の中に災いがあると浮かび出たという言い伝えも。

来迎寺^{らいこうじ}

その昔、茅を刈りに岳山に登った若者が、川に泳ぐ旨そうな赤い魚を見つけました。我慢できずに魚を食べると、顔が赤く角が生えた恐ろしい鬼になってしまったのです。悪さをする鬼は一度は改心したものの、後に京の都まで足を伸ばし、また悪さを繰り返しました。この悪い鬼を退治したのが渡辺綱と源頼光で、この鬼の死骸が埋まっている場所が鬼松山来迎寺です。

二子塚古墳^{ふたごづかこふん}

病気で双子を亡くした母親が供養のために、一夜にして築いたと言えられています。この古墳に鍬を入れると災いが起こるとも言われています。今でも、きっと母親が双子をまもっているのでしょう。

大名倉山^{おおなぐらやま}

「鶴塚ものがたり」元禄年間、山田金太夫が主の名令で名倉山で鶴を射ところ、その足には「頼」の字がかすかに残る金の札が付いており、源頼朝公が放った鶴だと悟った金太夫は鶴の供養に山の中腹に塚を立て、1本の杉をしるべとしました。

○大山小学校
○玉井小学校

参考文献：調査 - あだたらを知る会、編集発行 - 大玉村「安達太良の自然調査報告書」、2002年 / 安達地方新しい旅実行委員会「あだち野のむかし物語」、2002年 / 大玉村商工会地域資源調査事業実行委員会「大玉村の伝説」、2003年 / 大玉村観光協会「大玉まるごと百選」、2004年